

岡本泰典¹：広島県福山市宇治島に漂着した白樺製浮子Yasunori OKAMOTO¹：A Float made of White Birch drifted on Ujishima Island, Fukuyama City, Hiroshima Prefecture, Japan

白樺製浮子とは、生木から剥いだ白樺の樹皮が自然に反り返る性質を利用して作られる漁業用の浮子である。この浮子は、日本海沿岸に多く漂着することから、朝鮮半島やロシア沿海地方などで使われる漁具と考えられており、近年では、併用された発泡スチレンボールにハングル文字が記入された事例も見つかっている（林 2015）。

漂着記録 筆者は2016年7月18日、一般的な漂着域から外れていると思われる広島県福山市の宇治島で、この白樺製浮子1点を拾得した。

宇治島は、瀬戸内海の中央部、広島県沼隈半島と香川県庄内半島のほぼ中間に位置する、面積0.52km²の無人島である（財団法人日本離島センター 1998）。

筆者は、地元の環境保全団体「瀬戸内海宇治島クラブ」が主催する海岸清掃活動に参加した際、島の北側にある「北の浜」と呼ばれる砂浜で、海岸の漂着ゴミの中に白樺製浮子1点を発見した。長さは90mm、直径は39mmで、巻きが少しほどけた状態であった。厳密に言えば、この資料が浮子なのか、あるいは単なる白樺の樹皮なのか判別は難しいが、樹皮の幅がほぼ一定で形状が整っていることから、浮子と判断している。

なお、他には韓国製のクレーミングパウダーの袋と、中国製のインスタント麺の袋を1点ずつ発見したが、これらは船舶からの流出の可能性もある。

考察 今回発見された浮子の流出源は不明であるが、瀬戸内海を航行する外国船舶に、この種の漁具が積載されているとは考えにくく、他の海域、特に日本海を起源地と考えるのが妥当であろう。

漂着物学会の濱直大氏によれば、同氏は2011年5月30日および9月4日に、徳島県海部郡美波町田井の「田井ノ浜」で白樺製浮子（ないしは白樺樹皮）を拾得されており、日本海から太平洋への流出ルートが存在が示唆される。瀬戸内海に流入する場合、さらに紀伊水道や豊後水道を経由する必要がある、他に関門海峡を介した直接流入があったとしても、その数はかなり限られると予想される。

まして、宇治島は瀬戸内海のほぼ中央に位置するという地理的条件から、外海からの漂着物が到達する可能性はさらに低下するはずである。例えば藤枝（2009）は、ディスポーザブルライター等を指標とした分析の結果から、瀬戸内海に流入する外海性のゴミは、海域中央部にまでは達しないと指摘している。一方、極めて例外的な事例と思われるが、2005年には宇治島の北東側約4kmに位置する岡山県笠岡市大飛島においてココヤシ果実が発見されており（岡本 2013）、本海域にも外海からの漂着物が到達していることは確実である。今回発見された白樺製浮子も、その一例と評価できよう。

謝辞：投稿に際し、有益なご助言、ご教示をいただいた漂着物学会の茨木靖氏、濱直大氏にお礼申し上げる。

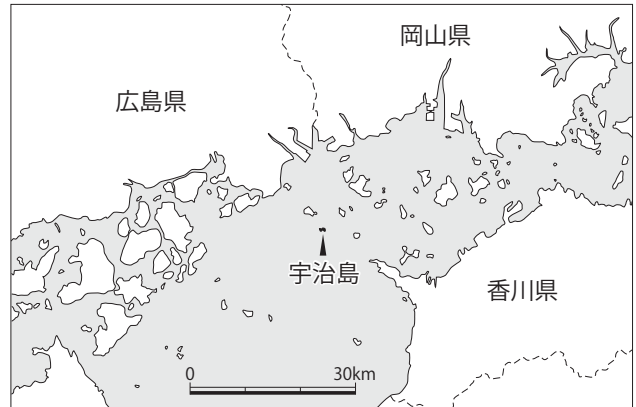


図1 宇治島の位置



図2 宇治島に漂着した白樺製浮子

引用文献

藤枝 繁. 2009. 指標漂着物を用いた瀬戸内海における海洋ごみの流れと起源の推定. 沿岸域学会誌 22 (2) : 27-36.

林 重雄. 2015. 福井県美浜町に白樺浮きの漂着. 漂着物学会誌 13 : 49-50.

岡本泰典. 2013. 白石島の漂着ココヤシ考. しぜんしくらしき 86 : 2-6.

財団法人日本離島センター. 1998. 日本の島ガイド SHIMADAS. 1151pp. 財団法人日本離島センター, 東京.

(Received Aug. 24, 2016; accepted Sep. 24, 2016)

¹ 〒701-1214 岡山県岡山市北区辛川市場533-3-202

¹ 533-3-202, Karakawaichiba, Kita-ku, Okayama 701-1214, Japan